



イクちゃんこども応援プロジェクト

活動報告

ACTIVITY REPORT



広島県の子ども
元気いっぱいキャラクター
イクちゃん

イクちゃんこども応援プロジェクト

活動報告

ACTIVITY REPORT

平成30年7月豪雨災害で被災した
地域の子供・子育て家庭に笑顔届けたい！

 広島県 子育て・少子化対策課

公益財団法人ひろしまこども夢財団



イクちゃんこども応援プロジェクト
活動報告
 ACTIVITY REPORT

もくじ
 CONTENTS

- はじめに 1
- 平成30年7月豪雨災害の被災状況 2~4
- イクちゃんこども応援プロジェクトの概要と活動 5~7
- 助成対象活動一覧 8
- 助成対象活動報告 9~25
- 資料 26~29

はじめに
 MESSAGE

広島県内に甚大な被害をもたらした平成30年7月豪雨災害一。子供と子育て家庭を始めとした多くの県民の方々が被害に遭い、長期に渡って厳しい生活を強いられました。また、施設の閉鎖などにより、行き場を失った子育て家庭が自宅にひきこもるケースなども多くみられました。

そのような状況の中、子育て家庭の力になりたいという声が、県内外の個人・企業・団体から私たちのもとに多数寄せられました。一方で、普段から地域で子育て家庭を応援している方々が、自発的に親子が集える場を開くなどの活動が県内各地で生まれました。こうした子育て家庭の力になりたいと思う人と地域で実践する人を繋ぐために、「イクちゃんこども応援プロジェクト」が立ち上がりました。

この冊子は、このプロジェクトを通じて関わった人々の支援活動を記録したものです。親子が集える場所、物資の提供、専門家による相談援助やイベントの実施など、支援のカタチは様々ですが、子供たちを笑顔にしたい一。想いはみんな同じです。

互いが支え合い実践することで、大きな力になることを知っていただくとともに、アクションを起こしたい時、この冊子を参考にいただければ幸いです。





平成30年7月豪雨災害による被災状況



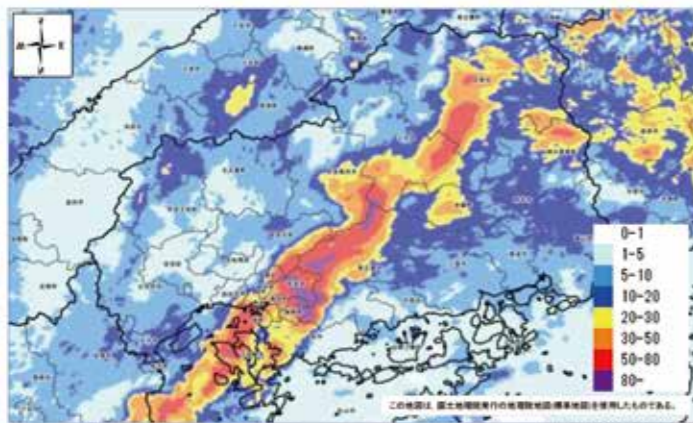
気象概況

僅か6日間で最大月間降水量(7月)に匹敵する過去最大規模の豪雨

| 観測所 | 累積雨量 | 最大時間雨量 | 観測期間 |
|---------------------|-------|--------|--------------|
| 安芸区役所雨量観測局 (広島市安芸区) | 478mm | 70mm | 7月3日0時~8日24時 |
| 安芸区役所雨量観測局 (呉市) | 654mm | 60mm | 7月3日0時~8日24時 |
| 野呂川ダム雨量観測局 (呉市) | 676mm | 63mm | 7月3日0時~8日24時 |
| 黒瀬町雨量観測局 (東広島市) | 511mm | 48mm | 7月3日0時~8日24時 |
| 本郷雨量観測局 (三原市) | 490mm | 60mm | 7月3日0時~8日24時 |

【参考】過去の7月の最大月間降水量
 広島 645.5mm(1993年)、呉 594.0mm(2009年)

7月6日19時40分 大雨特別警報発令



雨量分布図 (XRAIN実況 平成30年7月6日19時40分) 雨量出典: 国土交通省気研研



土砂災害危険度情報 (平成30年7月7日6時) 雨量出典: 広島県土砂災害危険度情報

平成30年7月3日から8日にかけて、わずか6日間で7月の過去最大月間降水量を超える雨量を記録するなど、県内各地で観測史上初となる記録的な豪雨に襲われ、多くの人的被害や、家屋やインフラといった物的損害など、戦後最大級の被害がもたらされました。

広島県の被災状況

死者・行方不明者100名超
過去50年で最大の人的被害

<人的被害> (H31.3.26)

| | |
|------|----------|
| 死亡 | 133 (24) |
| 行方不明 | 5 |
| 合計 | 138 (24) |

※ () は災害関連死で内数



(写真提供) 広島市

<避難状況> (H31.2.7)

| | |
|--------|------------|
| 避難所開設数 | 0 (702) |
| 避難者数 | 0 (17,379) |

※ () は7月7日6時時点

<その他の被害状況>

| | |
|---------------|------------------|
| 住宅被害 (R1.5.7) | 15,653戸 |
| 土砂災害 | 1,242箇所 (23市町) |
| 浸水被害 | 破堤12河川 越水82河川 |

県全域にまたがるライフラインの被害

| 区分 | 最大時 | 現在 |
|----|-------------------|------------|
| 停電 | 約4万7千戸 (7月7日8時時点) | 解消 (7月13日) |
| 断水 | 約22万戸 (各市町ピーク時) | 解消 (8月10日) |

✓ 給水所に並ぶ住民の方々



(写真提供) 広島県

<断水した市町>



1 広島市安佐北区

2 安芸郡坂町

3 呉市天応

4 安芸郡海田町

5 安芸区上瀬野

6 呉市安浦町

7 東広島市黒瀬町

8 呉市・東広島市

9 安芸区矢野

10 三原市・尾道市

| 観測所 | 河川数 | 箇所数 |
|-----|-----|-----|
| 破堤 | 12 | 4 |
| 越水 | 82 | |

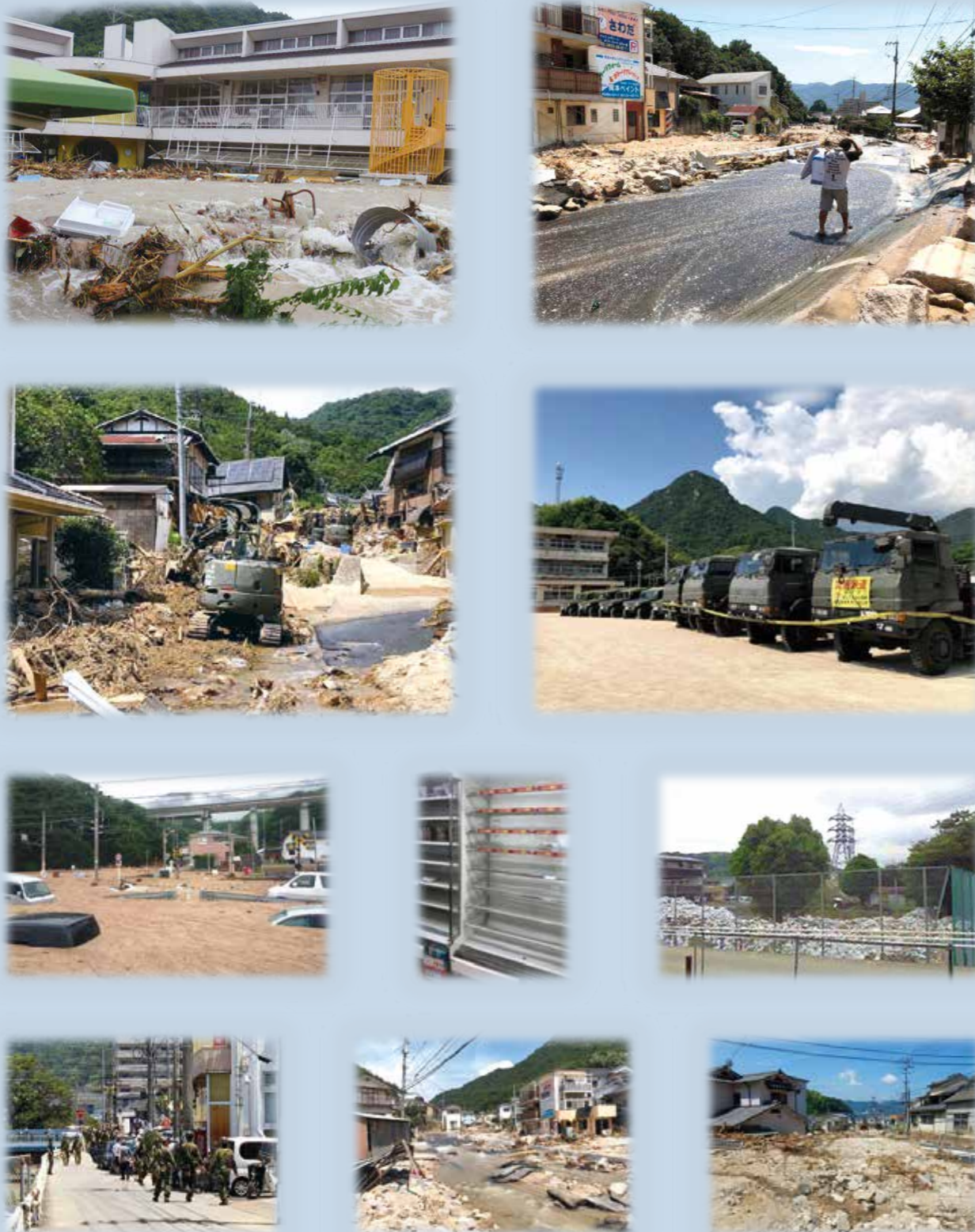
| 土砂災害発生状況 | |
|-------------|----------|
| 土砂災害発生箇所数 | 1,242 箇所 |
| 土砂災害による人的被害 | 計 87 名 |

2 イクちゃんこども応援プロジェクト 活動報告

イクちゃんこども応援プロジェクト 活動報告 3

被災地の状況

土砂の流出や河川の氾濫によって、家屋の倒壊や道路の陥没、子育て支援施設や保育所、幼稚園、小学校等が被災した地域もあり、また、公共施設の避難所開設や災害廃棄物の置き場所となった公園など、緊急対策のため、平時のような利用が出来ない施設も多くありました。そのため、行き場を失った子育て家庭が自宅にひきこもるケースなどが多くみられるなど、広い範囲で子供・子育て親子の生活環境に大きな影響がみられました。



写真提供／「KUREP」編集長 浦山寧子、広島県土砂災害情報サイト



「イクちゃんこども応援プロジェクト」とは？

平成30年7月豪雨災害で被災した子供と子育て家庭を支援したい人や団体の活動を紹介し、つなげるための仕組みとして県庁ホームページにサイトを7月19日に開設しました。情報発信や活動のサポートをするとともに、寄付金の受け入れと実施団体への助成を実施しました。

主な実施内容

- 被災地域の在宅家庭を支援する取組と子供たちの居場所づくりの紹介
- 一時預かりや保育所・放課後児童クラブ等の保育ボランティア等の募集
- 寄付金の受付と支援団体への助成
- 企業等からの支援物資の受付と被災者や被災施設等への送付
- 専門家と当事者を繋ぐ中間支援
- 地域子育て支援ネットワーク会議の開催による連携強化（平成30年8月12日開催）



平成30年7月豪雨災害支援地域子育て支援ネットワーク会議

各地で自発的に始まった子供・子育て家庭の居場所作りなどの様々な取り組みについて、支援者、支援団体の垣根を越えて、支援の輪が広がるよう、顔の見える関係づくりを目指して、県内の子育て支援・応援ネットワークによる情報交換会を開催しました。

日時：平成30年8月12日(日) 13時～16時30分

場所：サテライトキャンパスひろしま 5階 中講義室

進行：鈴木 まりこ氏(日本ファシリテーション協会・フェロー 災害復興支援室)

参加者：33名

●日程

13:00～ 開会

13:05～ オリエンテーション…写真①

13:30～ 紹介タイム

情報共有(日ごろの活動・災害時はどうして?)…写真②

プロジェクトの説明…写真③

県外の実践団体の紹介(参加3団体)…写真④

グループワーク「私たちにできること」…写真⑤

全体で振り返り…写真⑥

16:00 終了

16:00～ フリータイム(16:30まで)



参加者アンケートより

- 一口に被災地と言っても、被災の状況は様々。必要な支援も違う。今、私たちの地域に必要な事、小さなことでもその中から私ができることを続けていこうと思いました。
- みんなが同じ事をするのも良いけれど、それぞれの出来ることで活動していき、チカラを借りたい時に声をあげてお願いすることができる関係づくりをしたいと思いました。
- 何も活動していない身で引け目を感じたり、参加資格もないと悩んでいたが、被災地支援は長く続いていく事でそれには地域のチカラがあると知り、参加した意義を見出せました。



イクちゃんこども応援プロジェクトでは、下記の取り組みと連動し、プロジェクトを通じたおもちゃや絵本など物品の寄贈や、被災地の子供・子育ての様子について情報を共有しながら、専門家による支援の場づくりに協力しました。



広島県保育連盟連合会

「ほいくのひろば」

広島県保育連盟連合会の保育士会が主体となり、被災地の子供たちの安心・安全な居場所づくりと心のケアを目的とした「ほいくのひろば」が開催されました。

- 坂町・海田町・三原市本郷町で計7回(7月22日～8月26日の休日)



広島大学大学院医歯薬保健学研究科 助産・母性看護開発学研究室

「健康なんでも相談所」

大学研究室内に、助産師、保健師、看護師による被災地域の妊婦さんや乳児家庭のための健康相談、健康診査、沐浴や遊びスペース等「健康なんでも相談所」が開設されました。また、「ほいくのひろば」や呉市や三原市で行われた、「子供・子育てフリースペース」の活動においても、取り組み団体と保健師・助産師などとの連携した取り組みがみられました。



| | |
|---|-----------|
| 子どもおたすけ隊 活動地域: 呉市天応 マップ① | 掲載ページ P 9 |
| こどもスマイルミーティング 活動地域: 広島市安芸区矢野 マップ② | 掲載ページ P10 |
| 小屋浦夏祭り実行委員会 活動地域: 安芸郡坂町小屋浦 マップ③ | 掲載ページ P11 |
| チーム アリス 活動地域: 安芸郡、呉市、広島市 マップ④ | 掲載ページ P11 |
| Sunny Seeds Project サニー・シーズ・プロジェクト 活動地域: 呉市天応 マップ⑤ | 掲載ページ P12 |
| 瀬戸内飛行少年団 活動地域: 安芸郡海田町 マップ⑥ | 掲載ページ P12 |
| みくまりの森キッズ「夏休みそうめんながし」 活動地域: 安芸郡府中町みくまり マップ⑦ | 掲載ページ P13 |
| 遊ぼう会ぷらす 活動地域: 三原市本郷町～三原市全域 マップ⑧ | 掲載ページ P14 |
| おつかれもみほぐし隊 活動地域: 広島市、三原市本郷町 マップ⑨ | 掲載ページ P14 |
| アウトドアコミュニティ ハンターキッズ 活動地域: 庄原市 マップ⑩ | 掲載ページ P15 |
| 天応っ子の笑顔作ろう会 活動地域: 呉市天応 マップ⑪ | 掲載ページ P15 |
| サロン リッケ 活動地域: 三原市本郷町 マップ⑫ | 掲載ページ P16 |
| 災害で生活が変わった子供を支援する会 活動地域: 西日本豪雨地域 マップ⑬ | 掲載ページ P17 |
| 安浦こどもひろば たけちまる 活動地域: 呉市安浦町 安浦会館 マップ⑭ | 掲載ページ P18 |
| 地域の居場所 口田ワイワイ広場 活動地域: 広島市安佐北区口田 マップ⑮ | 掲載ページ P19 |
| 三原アレルギーの会 ひだまり 活動地域: 三原市、尾道市 マップ⑯ | 掲載ページ P19 |

| | |
|---|-----------|
| Team thanks チーム・サンクス 活動地域: 安芸郡坂町 マップ⑰ | 掲載ページ P20 |
| 子育てサロンいないいないばあ 活動地域: 三原市本郷町 マップ⑱ | 掲載ページ P20 |
| 広島県立熊野高等学校を育てる会 活動地域: 安芸郡熊野町 マップ⑲ | 掲載ページ P21 |
| 府中南小PTAビーチボールバレーチーム 活動地域: 安芸郡府中町 府中南小学校 マップ⑳ | 掲載ページ P22 |
| ピアサポート子育て相談センター 活動地域: 安芸郡坂町 マップ㉑ | 掲載ページ P22 |
| 小屋浦ひだまりひろばネットワーク 活動地域: 安芸郡坂町小屋浦 マップ㉒ | 掲載ページ P23 |
| 沼田本郷の天然水を守る会 活動地域: 三原市本郷町 マップ㉓ | 掲載ページ P23 |
| 本郷ひまわり保育所保護者会 活動地域: 三原市本郷町 マップ㉔ | 掲載ページ P24 |
| 特例認定NPO法人 三段峡一太田川流域研究会 活動地域: 山県郡安芸太田町 マップ㉕ | 掲載ページ P24 |
| NPO法人 ほしはら山のがっこう 活動地域: 安芸郡坂町小屋浦 マップ㉖ | 掲載ページ P25 |



団体名・活動名 **子どもおたすけ隊**
助成対象活動地域 **呉市天応** 代表者氏名 **山本 さなえ**

活動のきっかけは？
地域の子育て支援に携わっていたが、報道や災害ボランティアセンターでは被災地の子育て中の親子の様子がわからず、現地で民生委員さんと聞き取りに回った所、「乳幼児がいては被災後の片付けができない、子どもを預かってほしい」との要望があり活動始める。



どんな活動ですか？

- 0歳児から小学校低学年の子の預かりや遊びと情報交換の場作り
- 助産師による相談の場作り
- 小学生の学習支援の場（期間限定）
- コンサート、人形劇、ハーバリウム作り等気分転換のイベントや救急法等親の学びの場作り、ハロウィンパレード、クリスマス会等地域交流の機会を作る。



活動に寄せるおもい～活動からの気づき・感想・印象的な様子～

被災地の様子はそこに入ってみないと分からないことがたくさんあった。もっと大変な人がいるからと自分が被災者に入るのかどうか迷い、支援を辞退したり、「助けて」と言えない状況になること。また子どもの心身の健康が気になり、一時的にでも被災地から出してあげたいの思いと、近所中大変なのに、我が家だけ被災地から出かける後ろめたさで悩む親の心情、病気などのうわさだけが広がり、不安に陥ってもなかなか相談に行ける余裕がない現状。災害後は子どもの事は後回しになるが、可能な限り親子を避難所など殺伐とした場所から少し離れた場所に居場所をつくり、落ち着いて親子に寄り添う存在が必要だと実感した。

今後の取組についての展望や広く皆さんへ伝えたいメッセージ

市の支援もあり、呉市すこやか子育て協会の職員として週1日ずつ天応安浦地区に出向き、被災地等出張型ひろばを開設する事となりました。親子の交流はもちろん、地域の方々と子育て世代が集える交流の場づくり、防災教室の開催等に取り組み、この被災経験を次の災害に活かせる一助になればと思っています。

団体名・活動名 **こどもスマイルミーティング**

助成対象活動地域 **広島市安芸区矢野**

代表者氏名 **山崎 久美子**

活動のきっかけは？

西日本豪雨災害で被災された方々が子どもを預ける場所がなく、掃除や片付けなど身の回りの事ができなくて困っていることをニュースで知り、被災された方の子どもさんを預かることで保護者の方のお手伝いができるのではないかと考え保育ボランティアをしようと思いました。



どんな活動ですか？

子どもさんの保育（遊んだり、食事や睡眠など見て関わること）をする活動。保育ボランティアを募り、朝一番のミーティングで声を出し合うなどの連携を取りながら一緒に保育の場をつくった。

活動に寄せるおもい～活動からの気づき・感想・印象的な様子～

保育ボランティアへの応募ははじめからありましたが、保育を希望される方がいらっしゃらなかったため、被災地での避難所巡りなどや状況把握に回りました。その後、メディアなどで認知されたため、ボランティア活動の方の子どもさんや被災された方の子どもさんが利用されました。一か月限定でしたが被災地の方からはもう少しやってほしかったとの声がありました。被災地に自分も行って保育をする事で災害の恐ろしさを知ると同時に小さい子どもがいると片付けだけでも危ない現状であることがわかりました。保育をしてよかったと思いました。

今後の取組についての展望や広く皆さんへ伝えたいメッセージ

今回、被災した子どものケアについての研修会に参加してからのボランティア活動でしたので、ボランティアの方にも被災児の心のケアの大切さを伝えることができました。こういった活動をまたすることがあったら研修などをして意識統一をする事と、認知されるまでに時間がかかったので早めに場所など押さえること、場所選びに時間がかかったので地域住民の理解を得て早く場所を提供していくことが課題だと思います。

団体名・活動名 **小屋浦夏祭り実行委員会**

助成対象活動地域 **安芸郡坂町小屋浦**

代表者氏名 **渡部 亮**

活動のきっかけは？

小屋浦地区では公園・グラウンドが災害ごみ置き場になったが、唯一災害ごみ置き場とならなかった公園を使って、子供たちが災害前と同じように、精一杯遊べる夏の行事ができないかと考えた。

どんな活動ですか？

夏祭り（水鉄砲遊び・流しそうめん・かき氷・竹箆作りなど）を行い、バラバラになった子供たちが集まり、精一杯遊べる機会をつくった。



活動に寄せるおもい～活動からの気づき・感想・印象的な様子～

幅広い範囲で被災により、あそび場がなくなり、友だちとも会えない日が続いていた小屋浦の子供たちが8割以上集まり、みんな最初から最後まで残って楽しんでくれて、被災してからあまり見られていなかった笑顔が多く見られたと感想をいただいた。また、それ以上に地域の大人たちも楽しめ、楽しい行事となった。

今後の取組についての展望や広く皆さんへ伝えたいメッセージ

災害から8ヶ月が経ちましたが、復興にはまだまだ時間がかかります。これからも地域住民が発信していけるイベントを考えていこうと思っています。

団体名・活動名 **チーム アリス**

助成対象活動地域 **安芸郡、呉市、広島市**

代表者氏名 **加藤 麗**

活動のきっかけは？

バルーンアートの活動を地域で行っていましたが、住んでいるところが豪雨災害の被災地ということもあり、子どもさんたちに何かできないだろうかと考えているところにFacebookでこどもおたすけ隊等の活動を知り、連絡を取りました。

どんな活動ですか？

被災地域の子どもたちのイベントでバルーンをプレゼントし、笑顔を届ける活動です。

活動に寄せるおもい～活動からの気づき・感想・印象的な様子～

バルーンという、とても小さなアイテムですが、子どもたちが本当に喜んでくれて、その様子を見たお母さまたちまで笑顔になっていただけたことがとても印象的です。

今後の取組についての展望や広く皆さんへ伝えたいメッセージ

今後は少し規模を大きくして、被災地の幼稚園、保育所などにバルーンをプレゼントできたらと考えています。プレゼントさせてもらっている風船は長時間、浮いたままの形状を維持できる風船を使用しています。リリース用の風船は天然ゴムから作られている環境にやさしい風船を使用しています。



団体名・活動名 **Sunny Seeds Project** サニーシーズプロジェクト

助成対象活動地域 **呉市天応**

代表者氏名 **有田 靖予**

活動の
きっかけは？

多大な被害について被災地の友人からSNSを通じて知り、受験生にとって大切な夏休みのため、何かできないかと考えたため。

どんな
活動ですか？

主に天応地区の高校受験を控えた中学3年生に、英語や数学の受験対策を教えるとともに、心のケアを目的としたカウンセリングも行い、学生たちの学習と集いの場をつくった。



活動に寄せるおもい～活動からの
気づき・感想・印象的な様子～

被災地の受験生たちが、不安な中で勉強する環境ではない場所を作った。私たちが思っている以上に、子供たちは柔軟にこなやかに生きていた。久しぶりに同級生と集まって授業を受けるとい時間彼らにとって非常に貴重な時間であると感じた。また、子供たちを見守る保護者の方たちのカウンセリングもできた。

今後の取組についての展望や
広く皆さんへ伝えたいメッセージ

みんなそれぞれの進路が決まり新しい生活にも慣れたころと思います。多大な被害があったにもかかわらず、笑顔絶やさない皆に私たちが勇気と元気をもらいました。もし可能であれば、またあの場で今度は将来について語り合いたいです。

団体名・活動名 **瀬戸内飛行少年団**

助成対象活動地域 **安芸郡海田町**

代表者氏名 **小濱 眞哉**

活動の
きっかけは？

5年前の土砂災害後、ボランティアで熱気球搭乗体験会を実施、今回も被災地の子供たちの様子から、笑顔を届けたいと思企画した。

どんな
活動ですか？

日ごろは経験できない、10～15mまで上昇する熱気球（ロープで固定）で空中から地元の景色を眺めたり、ふわっと浮かび上がる体験をして、元気や勇気、そして、笑顔を届ける活動。



活動に寄せるおもい～活動からの
気づき・感想・印象的な様子～

熱気球を見ることも初めての子供たちが、気球が立ち上がった時、飛び上がって喜んでいる姿を見ると「やってよかった」と思い、また乗って降りる際は、とても良い笑顔を見ることができました。

今後の取組についての展望や
広く皆さんへ伝えたいメッセージ

気球を見る、乗るなどの非日常の体験を子供たちに経験してもらい、これからいろいろな事に興味を持ち、学習してこれからの成長の糧として欲しい。

団体名・活動名 **みくまりの森キッズ「夏休みそうめんながし」**

助成対象活動地域 **安芸郡府中町みくまり**

代表者氏名 **小池 隆男**

活動のきっかけは？

府中町のみくまり峡が土砂崩れを起こし、みくまり峡は全面立入り禁止となった。ふもとの北小学校区の夏の行事はほぼ中止になり、地元の子供もたちは外遊びもできず、夏休み中の水遊びの場も失った。みくまり峡で親子の山歩き・あそび場の活動を行ってきた「みくまりの森キッズ」に、北小学校区の親御さんも加わり、何かできることはないかと、夏休み中の集いを企画した。



どんな活動ですか？

夏休み中の水遊びの場と思い出づくりに地域の方々の協力のもと、地元の集会所でそうめん流し、ミニ縁日として、集いの場を設ける。



活動に寄せるおもい～活動からの気づき・感想・印象的な様子～

当日は準備段階から親子で参加してもらって場づくりを行い、「子どものためなら」と地域の方々も手伝っていただいた。夏休みにどこにも行けず家でゲームばかりしていたという子どもも、子ども同士で思い切り遊び、それを親御さん同士がほっとした表情で見守りながらお話をされていた。災害で心にぽっかりと穴があいたようだったけど、みんなで協力して楽しかったという声をいただいた。夏休みの北小学校の行事が中止となったことで、長い休みの間、親子ともに地域で集まる機会を失っていた。怖い思いをされた方、何とも言いえない気持ちを抱えていた方など、災害後に、知った顔同士で集まることで、思いを少しでも話すきっかけになった方もいた。

今後の取組についての展望や広く皆さんへ伝えたいメッセージ

北小学校区では、普段の生活を取り戻しつつあります。しかし、榎川上流のみくまり峡は、未だ全面立入り禁止で、復旧工事中です。みくまりの森キッズでは、復興に向けた話し合いを進め小さな復興イベントを計画中です。自然に興味をもち、親子で自然に親しむことで、災害や防災への意識も変わってくるように思っています。

団体名・活動名 **遊ぼう会ぷらす**

助成対象活動地域 **三原市本郷町～三原市全域**

代表者氏名 **赤川 直美**

活動の
きっかけは？

被災した知り合いが、災害ボランティアの活動をしたい人がいるので力になってほしいと連絡があり、7月9日の夜に本郷町船木地区の避難所を訪問し、物資が何も届いていないことを知って船木地区でボランティアを開始しました。

どんな
活動ですか？

「子どもたちの心のケア」が必要だと感じ、毎月1回以上、子どもの冒険遊び場を提供しています。



活動に寄せるおもい～活動からの
気づき・感想・印象的な様子～

三原市本郷町船木地区は、住民の皆さんの中に冒険遊び場の本質の部分が備わっており、提案し地域住民の方に働きかけることで子どもの居場所づくりが進んでいくことがわかりました。また、船木地区は、三原市名誉市民で本郷こども図書館の設立に寄与された故大田崇氏の生地でもあり、子どもの自由な遊び場・居場所づくりは使命でもあると感じています。

今後の取組についての展望や
広く皆さんへ伝えたいメッセージ

今後は大田先生の意志を引き継いで、廃校となった旧船木小学校内に冒険遊び場を作ります。閉校した小学校ですが災害をきっかけに「子どもの声の響く場」を目指し、冒険遊び場「ふなき発見さち」づくりを進めて参ります。

団体名・活動名 **アウトドアコミュニティ ハンターキッズ**

助成対象活動地域 **庄原市**

代表者氏名 **青木 俊介**

活動の
きっかけは？

災害が夏休み前だったということもあり、「被災地では、子どもたちが水遊びができず、思いっきり遊ばせてやりたい」という声を聞いたのがきっかけでした。

どんな
活動ですか？

庄原市観光協会のご協力で、庄原市にある西城川でアウトドアスポーツのラフティング体験をして頂くという取組です。



活動に寄せるおもい～活動からの
気づき・感想・印象的な様子～

初めてラフティングを体験される方々ばかりでしたが、何事もなく無事に終了致しました。非日常の体験をしたことで日々のストレスが軽減したとの声や、この夏は家族で出かけるなどができなかったので良い思い出ができたとの声を頂きました。開催にあたり、被災者の方たちの心情を考えると「楽しむ」という言葉など迂闊に言えないのではと考えていましたが、参加者の皆さんの楽しそうな笑顔と声にスタッフ一同安堵しました。

今後の取組についての展望や
広く皆さんへ伝えたいメッセージ

今後もアウトドアイベントを実施予定。ラフティングだけでなく被災地でのチャリティイベントなどを実施していきます。ぜひご参加いただきと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

団体名・活動名 **おつかれもみほぐし隊**

助成対象活動地域 **広島市、三原市本郷町**

代表者氏名 **小田 友里香**

活動の
きっかけは？

乳児子育て中のママ経営者たちが中心となり「家族でニコリ楽しむことが支援に繋がる夏祭り」を市内で開催。イクちゃんに売上金全額寄付をきっかけに隊結末。

どんな
活動ですか？

隊の活動では、被災地の方々が自主活動されていることも食堂・保健室へ来られる子育て中のご家族を中心に、マッサージを提供し心身の様子を保健室にお伝えする連携を行いました。



活動に寄せるおもい～活動からの
気づき・感想・印象的な様子～

手を当てマッサージし心と身体に耳を傾けていく中で、被災者の方々が我慢されている不安や弱音をデトックスして頂け、また、三原本郷食堂・保健室では運営者さんたちの笑顔や明るさが印象的で目標をもって集うことの力を感じました。

今後の取組についての展望や
広く皆さんへ伝えたいメッセージ

癒しの手がお役に立つ際はお声がけ頂けると幸いです。想いある皆様と広島を元気にしていく活動が出来れば嬉しいです。

団体名・活動名 **天応っ子の笑顔作ろう会**

助成対象活動地域 **呉市天応**

代表者氏名 **新宅 真里**

活動の
きっかけは？

イベントで、友達と楽しい時間を過ごしてもらうことで、子供たちの元気いっぱいの姿が戻ってきてくれるきっかけになればと考えました。

どんな
活動ですか？

イクちゃんこども応援プロジェクトの被災地支援「BBQ提供」を活用し、あわせて、家族や友人とバーベキュー、宝探しゲーム、ボールすくい、けん玉ショーなど食べて遊ぶイベント。



活動に寄せるおもい～活動からの
気づき・感想・印象的な様子～

天気も良く持ち寄ったレジャーシートや、簡易椅子など使用し、ゆっくりとした時間が過ごせました。また、ゲームも最後まで盛り上がり、景品やお土産も喜んでくれていました。災害に遭い、これまでと違う環境で過ごしていた子供達も参加してくれ、お友達、保護者やご家族と楽しんでいました。

今後の取組についての展望や
広く皆さんへ伝えたいメッセージ

天応地区では、まだ多くの方が以前の生活に戻れていません。最近では、公園にも子供たちの姿が戻ってきていますが心のケアが必要と感じることが多々あります。実際、私自身災害後は多くの方々の支援により助けられてきました。私も自分に出来る事があれば積極的に行動していきたいと思っています。

団体名・活動名 **サロン リッケ**

助成対象活動地域 **三原市本郷町**

代表者氏名 **花房 杏里**

活動のきっかけは？

元々、子育て世代の交流の場として開いていたサロンです。災害後、スクールカウンセラーの話を知り「災害時の子どもの心の状態」を知りました。そこで、子ども同士の交流や遊びが心のケアに重要だとわかり、学校などの代わりに子ども達が安心して集まれる場所を作りたいと思い「夏の特別教室」を開催しました。



どんな活動ですか？

体を使いたい子は体育館で体を動かし、静かに過ごしたい子は和室で絵を描いたり…。子どもがやりたい事を制限せず、好きなように笑顔で過ごせる環境を目指しました。沢山の方のご協力を頂き、子ども達にも大人が見守ってくれて、友達と過ごし「一人じゃない」という安心感を伝えられればと活動しました。



活動に寄せるおもい～活動からの気づき・感想・印象的な様子～

災害後は、被害の大小はあったにせよ、誰もが心が辛い状況でした。子ども達も家にかん詰めで、親も仕事や復旧復興で忙しく、心のケアまで目が向けられませんでした。しかし、スクールカウンセラーの話聞き少し違った角度からわが子を見られるようになると、夜泣きが酷くなったり言動が荒くなったり…沢山のSOSを発信していました。「きっとうちだけじゃない」そう思いたち、沢山の方にご協力の中活動を続けています。はじめは走り回る、新聞紙をビリビリに破る…そんな遊びが人気でしたが、夏が過ぎ学校が再開すると、ゆっくり座って工作をしたり落ち着いた遊びも増えてきました。沢山の見守りのボランティアのご協力もあり、親御さんが子どもから離れ、大人同士でおしゃべりをし、自分の状況を整理でき心のケアに繋がられた事も大きいと思います。

今後の取組についての展望や広く皆さんへ伝えたいメッセージ

災害は「こうなったら復旧復興が完了」というものではないと思います。これからも災害を忘れず、子どもや地域のみなさんが交流できるサロンになれるように、引き続き本郷で活動して参ります。

団体名・活動名 **災害で生活が変わった子供を支援する会**

助成対象活動地域 **西日本豪雨地域**

代表者氏名 **伊達 富美**

活動のきっかけは？

西日本豪雨で居場所をなくした子どもたちを見て、居場所や心のケアを提供したいと思ったのがきっかけです。東日本大震災の後、大人のボランティアは沢山褒められたけど僕たちのことは誰も褒めてくれなかった。僕たちだって頑張ったのに…といった子供がいたそうです。広島の子供にはそのような思いをさせたくないと思いました。



どんな活動ですか？

全国から集まった文具やおもちゃを被災地各所で子ども無料フリーマーケットとして配布し、体操教室や子ども食堂などを他団体と併設しました。手形アートで成長記録ができる“この夏頑張ったね賞状”を保護者から贈り、子どもからは保護者へプレゼントを渡す仕組みを作りました。子どもボランティアとして子どもの参加も促しスタッフも保護者も子どもも会話をする機会を多くしました。



活動に寄せるおもい～活動からの気づき・感想・印象的な様子～

最初は泣いていたり暴れていた子供が手伝いはじめ、小さな子の面倒を見るようになりました。他地域での活動でも、ブースを担当して切り盛りする姿もみられ成長を感じました。賞状渡しでは、「夏に頑張っていたのは親だけではなく、我が子だった」ということを再認識できた親子が夏を思い返しつつ語り、労わりの空間となることに気が付きました。力仕事ができず、ボランティアができない自分を恥じていたお母さまたちも、これならできると張り切って活動したのも印象的でした。また、「来年のクリスマスもやる？」という子どもの声が忘れられません。

今後の取組についての展望や広く皆さんへ伝えたいメッセージ

いまだに不安そうな顔を見せる子どもさんがいます。これから災害が起こるという不安があるからです。私たちは、災害を恐れず、災害に負けない心を育てる必要性を感じ、防災教育をはじめとております。子どもの心に寄り添って形を変えながら活動継続して参りますので皆様のご指導ご鞭撻の程よろしく申し上げます。多くの方のご支援に感謝の言葉しかありません。ありがとうございました。

団体名・活動名 **安浦こどもひろば たけちまる**

助成対象活動地域 **呉市安浦町 安浦会館**

代表者氏名 **割方 遥花**

活動のきっかけは？

自宅は被災しなかったものの、子どもを連れて出かけるあそび場もなく困っていました。もし、自宅が被災していたとしたら、子どもに絵本をもらえたらうれしいなあと思い立ち、Facebookで寄附を募ったところ、たくさんの方から絵本やおもちゃ、子ども用品などが届きました。どこかに、これら置いて自由にもって帰られるようにすれば、その場所が親子の息抜きの場にもなるかもしれないと、場所を探して回り、安浦会館の職員の方の応援で、共催事業として、こどもひろばとして開催させていただきました。



どんな活動ですか？

子育て世帯向けの物資支援および居場所の提供や、子どものあそびや大人の息抜き・リフレッシュになるようなイベントの開催。



活動に寄せるおもい～活動からの気づき・感想・印象的な様子～

できるだけ被災地感が少なく日常に近い空間になるよう、可愛いもの・楽しいことをたくさん集めてきれいに見せることを意識しました。一番最初のイベントの時に「笑ったり楽しいって思うことに罪悪感があったけど、ここに来て笑っていいんだって思えて嬉しかった。」と言われたことが印象的でした。全国各地から寄せられた物資の支援の他にも、安浦へ来てイベントを開催してくださる方や連絡をくださったり気にかけてくださる方がたくさんいて、本当に多くの方がこの町に思いを寄せてくれていたんだと大変心強かったです。

今後の取組についての展望や広く皆さんへ伝えたいメッセージ

最初は砂ぼこりと泥まみれの風景を見るのが苦痛で、とにかく落ち着ける空間が欲しいと思って駆け抜けて来ました。少しずつ落ち着いてきている今、災害が起きてからの対応だけでなく起こる前に何が出来るか、防災についての意識や関心が高まりつつあるかと思っています。ここで深まった絆を大切に、これからの自分たちにできることをみんなで考えていきたいと思っています。

団体名・活動名 **地域の居場所 口田ワイワイ広場**

助成対象活動地域 **広島市安佐北区口田**

代表者氏名 **寺本 克史**

活動のきっかけは？

安佐北区で「ワイワイ広場」を一緒に開催している広島医療生協さんの診療所が被災し、何か手助けが出来ないかと思ったことがきっかけです。

どんな活動ですか？

広島医療生協の診療所の1つである「あすなろ生協診療所」で、縄跳びやバトミントン、室内遊びなどの遊ぶ場所の提供と、お好み焼きやカレーなどの食事の提供を行いました。



活動に寄せるおもい～活動からの気づき・感想・印象的な様子～

調理器具や食材の運搬や慣れない場所での調理に最初は戸惑いましたが、無事に料理を作り提供することが出来ました。また、地域の学校なども快く子供たちへチラシ配布にご協力いただきました。参加してくれた子供たちは、建物の外と中を走り回って遊んでいました。遊びの部分をもう少し考えておけばよかったと思いました。子供に「来年もある？」と聞かれ驚きましたが、素直にうれしかったです。

今後の取組についての展望や広く皆さんへ伝えたいメッセージ

大きなものではなく小さくてもいいので、ここでも子供の居場所が出来たらいいなあと思います。

団体名・活動名 **三原アレルギーの会 ひだまり**

助成対象活動地域 **三原市、尾道市**

代表者氏名 **矢島 恵子**

活動のきっかけは？

今回の災害で、アレルギーの子ども・親子への支援活動（情報、物資等）を行う中での気づきから、いざという時のケアや日ごろから出来ることのヒントを得ようと思ったため。

どんな活動ですか？

災害時のアレルギー支援体制や、自助、共助のアレルギー対応ポイントを学ぶための専門家の講演を行いました。



活動に寄せるおもい～活動からの気づき・感想・印象的な様子～

アレルギーの発症予防、正確に把握して、治すことが災害対策の上でも重要であることを学びました。防災士、保健師、栄養士などキーマンとなられる方もご参加くださり、災害で助かった命が誤食で危機にさらされないよう、エピペン（アナフィラキシー治療補助自己注射薬）の打ち方の体験実習を通して緊急時対応も共有し、地域力向上の機会となりました。

今後の取組についての展望や広く皆さんへ伝えたいメッセージ

災害時のためにも、顔の見える繋がりを大切にしています。アレルギーに関わる悩みや思いを話してみませんか。1人じゃないです。ホッと一息ついて、治療や日々の生活に役立てて頂ければと活動しています。お気軽にお問い合わせください。

団体名・活動名 **Team thanks** チーム・サンクス

助成対象活動地域 **安芸郡坂町**

代表者氏名 **中村 亜砂海**

活動の
きっかけは？

被災地に「出張BBQ100人前」を満福広島さんが提供して下さることをお聞きし、遊ぶ場所も行事もなく、子どもも大人も集まる機会がなかったので、バーベキューを開催したいと思いました。

どんな
活動ですか？

子ども達の遊びとバーベキューの会を開催しました。備品などは、地域や保護者の方、坂みょう保育園さんの協力で用意いたしました。



活動に寄せるおもい～活動からの
気づき・感想・印象的な様子～

災害当初から助けてくれた地域の方にお礼が改めて言えた人、家から久しぶりに出てきて、地域の方と楽しい時間を過ごせた人、子ども達の笑顔に元気をもらえた人…それぞれに楽しい貴重な時間を過ごすことが出来ました。子ども達もたくさん集まって、皆で思い切り遊んで笑う事ができました。また復興にむけて地域一丸となって頑張っていきたいと思います。

今後の取組についての展望や
広く皆さんへ伝えたいメッセージ

Team thanksでまたこのような機会があったら、地域の方と子ども達が一緒になって、集まれる機会を作っていきたいと思います。皆さんに応援してもらいながら、笑顔溢れる元気な坂町を取り戻していきたいと思います。

団体名・活動名 **子育てサロンいないいないばあ**

助成対象活動地域 **三原市本郷町**

代表者氏名 **永井 理恵**

活動の
きっかけは？

元々は12年前に赤ちゃん連れの母親達で作った会です。災害を受けて、本郷地区で被災した親子に支援が出来ないかと考えました。

どんな
活動ですか？

保健福祉センターで、妊婦さんから未就園児とその保護者が集える居場所作りを行い、必要な物資を持ち帰る交換会や親子で調理をして温かい食事をみんなで囲みました。



活動に寄せるおもい～活動からの
気づき・感想・印象的な様子～

本郷にある2つの子育て支援センターが被災して、利用できなくなったので、未就園児が利用しやすい場を確保できて良かったです。また、活動のお陰で、災害時には、地元情報を得ることができたり、日頃から地域とつながりをつくっておくことが大事だと思います。サロンは、地元で同じ年齢の子をもつ親と定期的に会え、迷いや悩みを共有することで孤立感が和らいだり、地元の情報を生活や子育てに役立てています。

今後の取組についての展望や
広く皆さんへ伝えたいメッセージ

新規の方が参加しやすく、赤ちゃん連れが安全を確保できるように配慮しながら、皆さんと子ども達と楽しむひとときを持ちたいと思っています。お気軽に覗きにきてください。

団体名・活動名 **広島県立熊野高等学校を育てる会**

助成対象活動地域 **安芸郡熊野町**

代表者氏名 **加百 寿美**

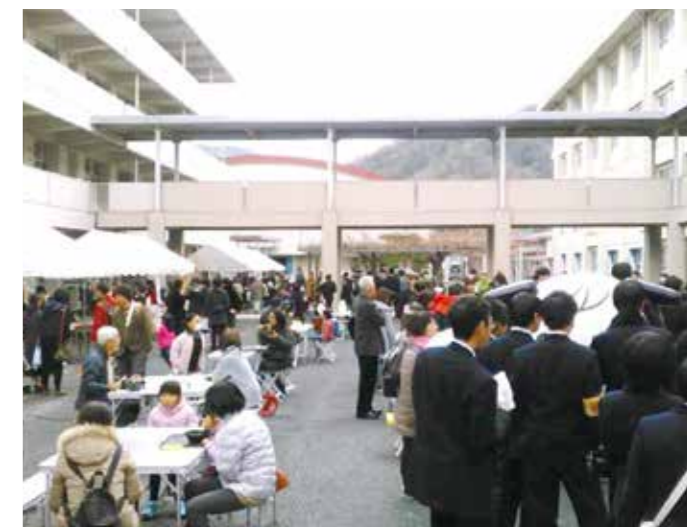
活動のきっかけは？

熊野町においても、多くの住民や子供たちが被災し、熊野高校の生徒がボランティア活動等を通して復興支援を行ってきたが、園児や児童たちやその保護者の心に大きな影を落とした夏となった。本校のワールド・カフェ「くま・みら・カフェ」において探究学習を行っている生徒達が「熊野町を元気に!」を基本コンセプトに発案し、当会が賛同し被災地支援をおこなうこととなった。



どんな活動ですか？

被災した地域の子どもや子育て家庭の来場者に「ふれあい動物園」等の居場所を提供し「風船配り」などのおもてなしを実施。動物とのふれあいによる「命の尊さ」や「私たちは災害に負けない」という思いなどを共有するなど、「勇気と元気」を与えるため取組をおこなった。



活動に寄せるおもい～活動からの気づき・感想・印象的な様子～

会の趣旨から地元企業や団体など多くの方が賛同し協働して「被災地支援」をおこなうきっかけとなった。地域の子ども達や子育て家庭の来場者は、「ふれあい動物園」や「校内のスペース」を居場所として長時間かけて楽しんでおられ、生徒や地域とのかかわりを噛み締めていた様子であった。また「イクちゃん」等のキャラクターは園児や児童をひきつけ、「風船配り」「動物とのふれあい」などを一層盛り上げることに貢献していただいた。生徒や地域の方々との対話は地域における所属意識を互いに高めている様子であった。

今後の取組についての展望や広く皆さんへ伝えたいメッセージ

「イクちゃんこども応援プロジェクト」をきっかけに、地域におけるコミュニティの広がり強い絆を感じています。今後も地域と一体となって子供達の健全な育成に取り組む所存であり「熊野で育ってよかった」「広島県に生まれてよかった」「広島県で子育てをしたい」と思える地域づくり、子供たちの育成に引き続き取り組んでまいります。

団体名・活動名 **府中南小PTAビーチボールバレーチーム**

助成対象活動地域 **安芸郡府中町 府中南小学校**

代表者氏名 **小林 慶子**

活動の
きっかけは？

元々、保護者が集まって、ビーチボールバレーをやっていました。被災により遊ぶ機会が減少していた子どもたちに、遊びと居場所を提供したいというのが活動のきっかけです。

どんな
活動ですか？

朝ご飯&ビーチボールバレー体験会を11月と12月に開催しました。朝ご飯と一緒に食べ、体育館でビーチボールバレーを体験しました。



活動に寄せるおもい～活動からの
気づき・感想・印象的な様子～

開催中、子ども達の笑顔が多く見られたことが印象的でした。参加者アンケートもとって、子どもたちは、皆と食べられておいしかった、楽しかったという感想が多く、ビーチボールバレーも初めてでも楽しかった、みんなで出来て楽しかったという感想が多かったです。

今後の取組についての展望や
広く皆さんへ伝えたいメッセージ

継続的な活動となると、実施団体や活動資金など、いろいろな意見もあり、むずかしさもありますが、今回は「イクちゃんこども応援プロジェクト」の助成金で子どもたちが笑顔になる活動ができたこと、とても感謝しています。

団体名・活動名 **小屋浦ひだまりひろばネットワーク**

助成対象活動地域 **安芸郡坂町小屋浦**

代表者氏名 **丸子 有美**

活動の
きっかけは？

小屋浦が被災をして大変な中、音楽を通じ、癒しや日常だった時間を過ごしてもらいたいと考えたため。

どんな
活動ですか？

声を出して歌を歌ったり、お茶を飲みながら世間話や、被災の状況などの会話をした。地元の方たちにも協力してもらい、歌だけではなく、紙芝居、英語を楽しむ場を設けた。



活動に寄せるおもい～活動からの
気づき・感想・印象的な様子～

活動を通じて、歌を歌うことで日頃、胸にしまっている気持ちをうまく発散してもらえた印象でした。時に笑い、涙を流しながら胸に秘めている思いを少しずつ語られる方もいらっしゃいました。活動時期はまだまだ、生活が見えない方もいらっしゃるにも関わらず、参加されて被災のことを少しでも忘れて過ごせる時間があるとありがたいという言葉も頂きました。

今後の取組についての展望や
広く皆さんへ伝えたいメッセージ

大きな活動でなくとも、子供たちや住民の方が元気になるような場が、あるといいなと感じています。普通に見えても心の中に凹みとなっている部分があります。音楽で癒しの時間を設けるように、各所での活動を検討しています。

団体名・活動名 **ピアサポート子育て相談センター**

助成対象活動地域 **安芸郡坂町**

代表者氏名 **山田 義治**

活動の
きっかけは？

全国から支援者が集まる中「#がんばろう広島」のハッシュタグを見て、広島で支援が必要な地域があるならば、まず広島に住む住民が支援をおこなわなくてはと感じたため。

どんな
活動ですか？

坂町の仮設住宅にある談話室で、フットバスによる温浴、足裏マッサージをおこない、その後、手作りスイーツを食べながら談話する。



活動に寄せるおもい～活動からの
気づき・感想・印象的な様子～

同じ仮設に入居していても以前から知り合っていない場合、あまり話をする機会がなく過ごされているようです。名前を知らない被災者同士が何かを目的として談話室に集まり「ただお話をして帰る」ことが必要だと感じました。被災者自身でその「何か」を企画することは難しく、そのきっかけを市民活動で補うことが出来るのではないかと思います。

今後の取組についての展望や
広く皆さんへ伝えたいメッセージ

突然の災害で「生活」することが困難になった場合、まずは「住む」場所の確保、そして徐々に家族の平静を取り戻しながら、今後の生活を考えるようになると思いますが、心理面では、短期間ではなく長期支援の必要性を感じます。

団体名・活動名 **沼田本郷の天然水を守る会**

助成対象活動地域 **三原市本郷町**

代表者氏名 **柳川 朝郎**

活動の
きっかけは？

7月の豪雨で使えなくなった沼田本郷天然水の水汲み場の水を待ち望んでいる人たちのために急いで復旧させ、町内の子ども達に元気を取り戻してもらうために地域で感謝祭を実施した。

どんな
活動ですか？

キッズコーナーを作り、綿菓子、ポン菓子の屋台、ボール投げゲーム、くじ引きなどのお楽しみコーナーを無料で提供し楽しんでもらった。



活動に寄せるおもい～活動からの
気づき・感想・印象的な様子～

沼田本郷の天然水の周知になった。天然水の美味しさを知り、いつまでも大切に守っていこうと子ども達に水の大切さを伝える事が出来たのではないかと感じました。子ども達も辛いけれど、親子での参加が多く、家族の楽しい思い出が作れたように感じました。

今後の取組についての展望や
広く皆さんへ伝えたいメッセージ

名水の水を飲んで「名水で入れたコーヒーがまるやか」「宝の水です」「ご飯がおいしくなる」と感想を沢山もらっている。キッズコーナーが賑わったので引き続きキッズコーナーを充実させ、家族で楽しい思い出になる場所を作り、みんなに元気になってもらいたい。

団体名・活動名 **本郷ひまわり保育所保護者会**

助成対象活動地域 **三原市本郷町**

代表者氏名 **兼崎 素子・飯塚 由似**

活動の
きっかけは？

通い慣れた保育所の被災によって、思い入れのある遊具や作品などが水没してしまった園児の為に、少しでも思い出に残るイベントを開催したいと感じたため。

どんな
活動ですか？

保護者会が「秋だけど、夕涼み会」を企画し、被災後に代替え保育として通っている高坂保育所の年長園児と合同で、軽食、手作りゲームコーナー、スタンプラリー、花火を実施した。

活動に寄せるおもい～活動からの
気づき・感想・印象的な様子～

夕涼み会の為に準備していたものも全て水没してしまい、開催が困難になる中、イクちゃんこども応援プロジェクトの活動を知り、開催できることとなった。保育活動の一環としても、子ども達が準備などの一部も行うことで、保護者会だけでなく、子ども達、保育士の先生とが一同となることができた。イベント開催当日の子ども達の楽しむ姿、キラキラした表情が印象的だった。

今後の取組についての展望や
広く皆さんへ伝えたいメッセージ

本郷ひまわり保育所は、2019年10月より再開予定です。それまで、バラバラに過ごしていた子ども達がやっと一緒に過ごせるようになります。災害で得た経験や思いを今後も風化させることなく、過ごしていけたらと思います。



団体名・活動名 **特例認定NPO法人 三段峡一太田川流域研究会**

助成対象活動地域 **山県郡安芸太田町**

代表者氏名 **本宮 炎**

活動の
きっかけは？

ネットワークを通じて夢財団に「自然があり、外で思いっきり遊べる環境がある」と伝えたところ、小屋浦の子ども達を紹介していただいた。

どんな
活動ですか？

自然の中で、夏をおもいっきり楽しんでもらおうと、古民家を拠点に場を作り、自分で魚をさばいて食べたり、サッカーやハンモックで、友達や地元高校生と一緒に楽しむ場を提供した。

活動に寄せるおもい～活動からの
気づき・感想・印象的な様子～

当団体のできること伝え、それに合う災害支援を行うことができ、うれしく思います。「この夏休みに友達と外で遊んだのは初めてだった」と言った子どもがいてとても印象的だった。また、子ども達にとってのお兄ちゃんお姉ちゃん的存在である高校生が見守りスタッフとしていたことが、良かったと思いました。

今後の取組についての展望や
広く皆さんへ伝えたいメッセージ

この後、小屋浦でのイベントに合わせて、新鮮野菜を届けて、子ども達と交流してきました。元気づけることを目的にしましたが、私たちも元気をいただきました。今後も小屋浦の子ども達と交流していきたいです。また、西日本豪雨災害支援も続けていきたいです。



団体名・活動名 **NPO法人 ほしはら山のがっこう**

助成対象活動地域 **安芸郡坂町小屋浦**

代表者氏名 **檜谷 義彦**

活動のきっかけは？

この度の豪雨災害を受けた小屋浦地域（小学校のPTA会長）とつながり、「地域と子どもと遊び」に関わる団体として一時的な室内遊び場「木のおもちゃやボードゲームで遊ぼう」の支援を行うこととなった。



どんな活動ですか？

木のおもちゃには、木の持つ様々な性質や遊びのバリエーションの豊かさによる癒しの効果が期待でき、ボードゲームには非日常コミュニケーションによって人とつながれる場を提供できる可能性があることを生かし、遊び場を継続的に開催することを考えていた。しかし当日は様々な理由で子ども1名のみでの参加であった。あそびサポーター2名とゆったりした遊びの時間を過ごした。



活動に寄せるおもい～活動からの気づき・感想・印象的な様子～

今回の課題は、「①被災地での開催に関わる地域キーパーソンの負担」「②被災の程度や今後の生活立て直し等に家庭差があり、地域内の複雑な人間関係の中で遊び場参加への遠慮などが起きていること」「③被災地の遊び場の子ども自身のニーズの再考」であった。今回特に印象的だったのは、「平常時から、<地域に生きる子どもたち>がく遊び場所、遊びを通して出会う人（遊びに関わる団体）、様々な遊び経験」と安心して結びついていることが、非常時の子どもたちの自主的な遊び場への参加や、いつもの遊びが出来る安心感、遊びの癒し効果につながるのでは」という気付きだった。

今後の取組についての展望や広く皆さんへ伝えたいメッセージ

平常時～被災地における遊び場づくりについて、広島県内の関係団体がネットワークを構成し、顔の見える関係性づくりや研修などを通じた共通認識づくりが出来る仕組みがあれば、平常時の「地域」の遊び場の意味を広め、非常時には互いに助け合えるのではと気付かされている。

「イクちゃんこども応援プロジェクト」へ寄付寄贈をいただいた個人・団体数

- 寄付個人：30名
- 寄付企業・団体等：26団体
- 物資提供企業・団体等：12団体

(平成31年4月30日現在)

メディア記事

平成30年 8月14日 中国新聞

2018年(平成30年)8月14日(火曜日) ◆中国総合(26)

西日本豪雨 広島県、寄付募る 子ども支える 活動に助成金

保育園やイベント 1団体最大5万円

県の子育て支援センター「イクちゃん」にちなみ、募金を助成は「イクちゃん」でも応援プロジェクトの名称で実施する。募財団が、寄付を受け付ける専用口座を広島銀行県庁支店に開設。県庁一階ロビーには専用の募金箱も置いた。個人や法人を対象に12月31日まで、幅広く募る。寄付金は、被災地で過ごす子どもや子育て家庭を支える取組に役立てる。具体的には、片付けや掃除の準備を代行して掃除機を借りたり、自然体験ツアーや直営の子ども食堂に助成する考え。金額は1団体につき最大5万円。会場費や交通費、材料費など充ててもいい。

県庁では、被災地で過ごす子どもや子育て家庭を支える取組に役立てる。具体的には、片付けや掃除の準備を代行して掃除機を借りたり、自然体験ツアーや直営の子ども食堂に助成する考え。金額は1団体につき最大5万円。会場費や交通費、材料費など充ててもいい。

県庁では、被災地で過ごす子どもや子育て家庭を支える取組に役立てる。具体的には、片付けや掃除の準備を代行して掃除機を借りたり、自然体験ツアーや直営の子ども食堂に助成する考え。金額は1団体につき最大5万円。会場費や交通費、材料費など充ててもいい。

平成30年 8月28日 中国新聞

西日本豪雨 親子の集いの場失う 被災地の母親に 不安語れる場を

もっと大きな被害を受けた人いる…自分たちだけ気分転換気が引ける…

西日本豪雨から1カ月半が過ぎたが、親子向けのオープンスペースや公園など子育て世代が集う場を失ったままの地域も少なくない。「自分より大きな被害を受けた人もいるから」と、不安を周囲に打ち明けられない母親もいる。被災後の子育ては孤立しがちだ。地域が再生するまで長いスパンで、母親たちが心の内を語り合える場が求められている。

広島県は、被災地の子育て支援活動の情報をホームページ(HP)で公開している。住民や企業、NPO法人などが、託児や子どもの居場所づくりなどに取り組む。「イクちゃんこども応援プロジェクト」で検索すると、それぞれの日時や場所などが分かる。

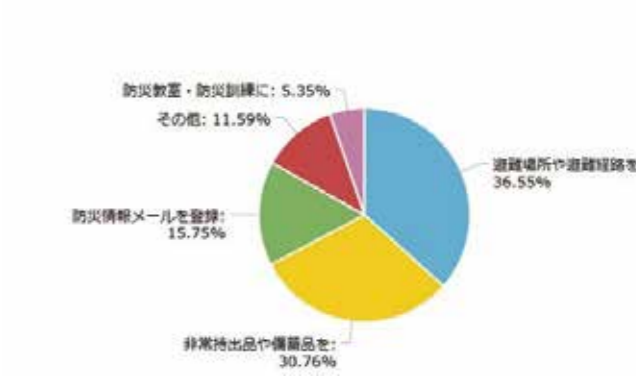
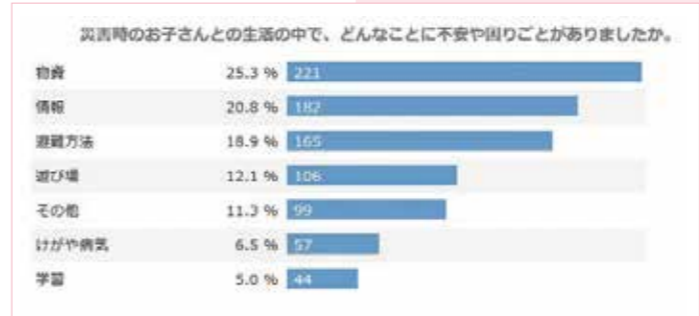
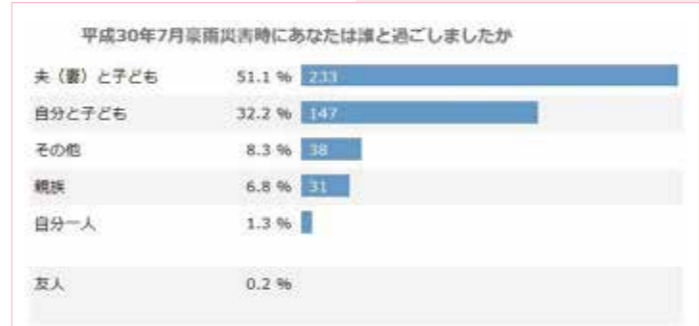
広島県は、被災地の子育て支援活動の情報をホームページ(HP)で公開している。住民や企業、NPO法人などが、託児や子どもの居場所づくりなどに取り組む。「イクちゃんこども応援プロジェクト」で検索すると、それぞれの日時や場所などが分かる。

イクちゃんこども応援プロジェクト

【アンケート調査】(平成31年3月)

- 調査対象：子育て中の方・子供・子育て支援に携わる方
- 周知方法：県内の子育て支援センター等でのチラシ掲示、(公財)ひろしまこども夢財団公式メルマガ(Kids☆めるまが)による配信
- 回答方法：インターネットによる任意回答
- 回収結果：456件(子育て中母親91.4%、子育て中父親8.1%、その他0.4%)
- 調査期間：平成31年3月27日～4月15日

【質問及び統計(抜粋)】



JS chart by amCharts

みなさんからいただいたコメント

※アンケートから一部抜粋

災害時、子供との生活の中での不安や困りごと

近隣で水没した地域や通行止め道路があったが、SNSの情報しか入らなかった。
(福山市/30代母親)

非常食や水分にも限界があり、ギリギリまで創意工夫をして凌いだ。
(呉市/50代母親)

子供に卵アレルギーがあるため、食べ物が底を尽きたらどうしようという不安があった。
(呉市/40代母親)

子供の食べ物や飲み物。怖がるけれど、遊んであげられなかった。水が深くて子供を連れて避難出来ない。
(福山市/20代母親)

臨月だったので、子供たちを連れてお風呂や給水所の長い列に並ぶのは大変だった。断水中に産し、沐浴がしばらく出来なかった。
(尾道市/30代母親)

幼稚園に通う道が使えず登園できなくなり、お泊り保育も中止。遊びに行く公園も土砂や瓦礫の保管場所となり、夏休みなのに遊びに行くことも習い事にも行けなくなった。
(広島市安芸区/40代母親)

避難した地域は全く被害もなく、「大丈夫。考えすぎ。」と言われて、意識の差に戸惑った。
(広島市安佐北区/40代母親)

子供が学校や幼稚園に行っているときに災害が起こったら、どのようにして子供の安否を確認できるのか不安。
(広島市西区/40代母親)

家で缶詰状態だったので、子供が退屈していた。親も復旧作業の傍ら、子供を見るのがしんどかった。
(広島市安芸区/40代母親)

離乳食期でパンとバナナが店頭からなくなり、大変だった。いつもの遊び場も避難所となり、遊びに行く場所がなくて大変だった。
(府中町/30代母親)

災害をきっかけとした気持ちや生活の変化

今まで防災訓練など家族で参加していたが、結局は自分の身は自分で守るしかないこと・隣近所の人との関わりを持つことの意識が強くなった。
(三原市/40代母親)

持ち出し品を用意しないといけないと思うが、何をどうしたらいいかわからない。
(広島市安佐南区/40代母親)

車のガソリンは常に半分以上維持することとし、備蓄に関しては二階に保管することとした。
(広島市安芸区/30代母親)

以前から防災メールの登録をしている。
(坂町/30代父親)

防災士の試験を受けた。
(世羅町/40代母親)

近所の方と防災のライングループを作る話が出ている。
(広島市安芸区/40代母親)

ハザードマップを利用して安全な所へ引越した。
(広島市安芸区/20代母親)

防災について考えているつもりだったが、ご近所さんとの繋がりで心強さを感じた。地域の繋がりの大切さを痛感した。
(東広島市/50代母親)

渋滞の中、瀬野のコンビニでも断水が理由でトイレが使えなかったため、携帯トイレと大判のバスタオルを車に常備した。
(東広島市/40代母親)

避難については子供と話を普段からしている。防災メールも登録済み。備蓄品は普段使えず、消費に困るのでしてないが、日頃から冷凍食品等は多めに準備している。
(尾道市/40代母親)

災害を受けて感じたことや気づき

家が近いのでボランティアに行きたかったが子供がいるとどうしても行けなかった。災害にあった家庭の子供とボランティアしたい家庭の子供を託児してくれる場所があれば作業できる大人の数が増えると思う。
(広島市安佐北区/30代母親)

市や県からの情報より、ツイッターや友人からの写真メールで新しい情報を次々に知ることができた。災害時にはそんな今のナマの情報が集まるサイトを作っていたら、サイトだけ見ていれば情報がつかめるのでいいなと思いました。
(東広島市/40代母親)

子供が生まれた時点で避難場所や避難する時の持ち物などを教えて欲しい。
(広島市安佐南区/30代母親)

避難指示等に迅速に従えば被害が少なくなる。…といった報道をよく目にするが、「市内全域」という大雑把な範囲に出された情報では、どの避難場所がその時点で安全なのか分からない(避難場所もその全域に含まれるのだから)。例えば、防災ラジオなどもこのエリアの人(もしくは緊急放送を流すエリアを限定して、「今この放送が流れているエリアの人」とする)は何処の避難場所に移動してください。このルートは通らないでくださいなど、具体的な指示が欲しい。ライフラインの情報は迅速に出して欲しい。
(三原市/40代父親)

子ども達は、災害を怖がるようになった。怖さを越えて、リスク管理の意識に繋がれば、思っています。
(東広島市/40代母親)

SNSなどのネットワークがかなり役立った。通行できる道路の情報や、被害の情報など、とにかく一日中情報を集めている感じだった。
(東広島市/40代母親)

今まで付き合いのなかった方とも協力したり声を掛け合ったりしたことで、乗り越えられた気がする。
(福山市/30代母親)

小さな子どもを連れて避難する際、慣れない環境でぐずり、周りの目も気になり、結局夜中に自宅に帰った。小さな子どもや、体の自由が効かない方と一緒に避難することは簡単では無いと感じた。
(海田町/30代母親)

職場・学校・自治会etc.小さな単位での啓蒙活動をずっと続けていく必要があると思う。
(広島市安芸区/40代母親)

初めて体験して、あの状態は危なかったのだと後から思った。すぐ近所に水害碑があるのも後になって知った。やはり地域の人が新しく入った人に言い伝えて行くことが大切だと思う。これからは意識していきたい。
(呉市/40代母親)

防災グッズは準備していたが、地震と違い、今回のように自分達である程度避難のタイミングをはかれる場合は、必要になるものが違うことが分かった。子供が食べられるものは、成長に合わせてどんどん変わるので、都度、防災グッズの見直しをする必要があると感じた。
(三次市/30代母親)

仕事に災害となった場合、(以前から待ち合わせ場所は決めているが)子供たちそれぞれが自分で判断できるかどうか…。今回のように道が寸断した場合、職場等からは帰宅できないし、小中の子供がやるべきことを待っておくことができるか。夜間の災害で停電となったときに、仕事で留守しており子供だけだった場合や下の子2人だけだった場合の過ごし方…など、考えておかないといけないことがたくさんあることを思いしらされた。
(三原市/40代母親)

豪雨が降り続く中、それでも大丈夫だと思う自分がいた。やはり、最悪の事態を想定し行動する必要があると実感した。
(三次市/30代母親)

これまでは避難場所の確認くらいしかしてなかったけど、子どもが生まれてからは移動手段や持ってくるものがたくさんあると思った。
(大竹市/40代母親)

いろんな人に助けってもらって、近所の助け合いがどれだけ助かるか分かった。
(呉市/40代母親)

イクちゃん子ども応援プロジェクト 活動報告 令和元年(2019年)5月発行

編集・発行 イクちゃん 子育て・少子化対策課 / 公益財団法人ひろしま子ども夢財団

〒730-8511 広島県広島市中区基町10-52 http://www.ikuchan.or.jp

